

Manuel (Manny) Villagomez さん インタビュー

2010年9月 マニーさん自宅にて



マ： マニーさん

松： 松本綾子さん

小： 小代有希子

ゼ： ゼミ生（池田和陽、伊澤麻衣、久保田優稀、スリド、廣島克哉、真野英恵、山地沙希）

ゼ： （アメリカの独立記念日は）7月4日にあって、同じ日にサイパンでは解放の日をお祝いすると聞いたのですが、同じ日で、アメリカの独立を祝うというのと、サイパンの解放を祝うというのだと、個人的な意見では、どちらのほうが重要だと思っていますか？

マ： July the 4th? ああ……。あれはあ……。ああ……。戦争入った時ね、（注：米軍が）上陸した時、キャンプになったね。日本人、島民、みんな離れてね。で、ぼくらが、あのお、ジュンケイ（？人差し指を立てた右の手で水平の円を描くようなジェスチャー）だった。で、みんな……。あの、何てっかな……。ああ……。(しばし考え込んで) POWは何って言ったかな、日本語で。POW。戦争の。

松： PW, ああ、憲兵。

マ： あ？

松： 憲兵。

マ： いいや。



松： 違う？

マ： これえ。(やや声を荒立て、笑いながら両手に手錠がかけられたジェスチャーをする)

小： POW、戦争捕虜。

マ： そう！ 戦争捕虜かな。ね。で、ああ、Nineteen forty-seven ね、・・・の7月4日、ね、僕ら、free したんだ。ね。Free。だからあれ取ったんだ、あの日を。相当撃ったな(?)、僕、あの時。下っばだから。(笑)

松： だから、どっちか思いっていったら、その・・・解放の・・・

マ： July the 4th はね、アメリカの、ああ、Independence だろ。だから、僕らの Independence だよ。日本からのね。もう、自由になった、僕ら。日本時代ね、僕ら自由じゃない。(右手を大きく振って否定のジェスチャー) 島民は。島民は違う。(両手で、高さの格差があるようなジェスチャー) だから、ああして、取ったんだ、7月4日(しちがつよっか)。フリー(両手を挙げて笑う)。(話しをおえて、他の質問は、と言うようにゼミ生を見回す) はい、どうぞ。

ゼ： えっと・・・日本から・・・

小： 大きな声でね。

ゼ： はい。日本から自由になったと、おっしゃったんですが、その日本が統治していた時代は、日本のことを、どのように思っていましたか。あと今は・・・

マ： (質問が終わるのを待たずに) 簡単に言うておくがね、違うよ、日本の政府はね。僕ら、三等国民・・・ねえ・・・と、言われた。(笑) だから違うんだよ。学校でもね、公学校、5年生まで。日本人は、高等・・・中学校。(確かめるように首を何度か縦に振って、しばらく考える) で・・・いろいろ、何でもできる。(注：僕たちの側は) できる、できないのがある、たくさん。例えば、酒ね。飲めない。(注：飲めるのは) 日本人だけ。自由じゃないんだよ、僕ら。(確かめるように首を縦にふり)・・・自分の家(うち)でね、Not free。自由じゃなかった。

ゼ： 家(いえ)でもですか?(注：「家」を、自分の居住空間においても、と勘違いした質問。)

マ： (やや困惑したように、黙ってうなづく。そして無言で、次の質問を促す。)

ゼ：(戦争中は) 何かすごい大変だったなあっていうことが、あの、今でも思うこと、覚えてることを知りたいと・・・

マ：(質問が終わるのを待たずに) そうね、忘れられないよ。配給。回覧、あの、まわる。配給、なんでも配給ね。だからその前(注：戦争前)は良かったよ、日本時代はね。だが、あれだけが、違うんだよ。(また両手で、高さの違いを表すジェスチャー) 一等国民、二等国民とがね、あった・・・ああ、昭和16年までは、良かった、日本時代は。政府は、あの・・・あの・・・、平和だから。だが、ああ・・・経済は、一番だったんだよ。さとうきびだから。ね・・・ で、あの時は、全然違うさ。ああ・・・3日(みっか)・・・ああ・・・昭和16年までは、(注：日本人は) 3万人いるだろう。で、僕ら、3千もない、島の人・・・で、みんな、ガラパン、泊まってるんだよ。で、みんな日本人が来るからね。僕ら、出てったんだよ、山に。貸す(?) から。それだけの金(カネ) 入るのはね、貸り・・・ああ、Rent。 貸す・・・貸し屋(貸家?)・・・ そりゃ、良かったよ、ああ・・・昭和16年前は・・・ まだ(僕は) 5年生、その時。

ゼ：今、おいつつですか?

マ：大正生まれ。ハッハ・・・86(はちじゅうろく)。大正13年。

松：じゃあ、えーあの、兵隊さんが来るまでは、日本人と、島民とは仲良く暮らしてたの?

マ：いやあ、兵隊ないもの。ハッ(右手で振り払うようにして笑いながら)、昭和16年前は、兵隊なあいよ。

松：うーん、その時はよかった?

マ：いやああ、そうそう。・・・(ゼミ生に向かって) で兵隊ってね、戦争、戦争してるのが始まった時ね、島民もね、Guamは、チャモロだろ。ね、おんなじ。だから、ぼくらのお父さん、お母さん、みんなGuam うまれだった。スペイン時代、300年前・・・ ね。 で・・・、ああ、(注：その頃) 日本の時代は・・・あれ、江戸時代。 知ってる? ふっ(笑) 百何年前ね。(注：チャモロ人は、グアムからサイパンへ?) 来たんだよ、少しずつ・・・ だからあ、戦争始まったときね、日本の兵隊とね、僕ら、行ったんだよ、Guam。 戦時中、占領地・・・で、手伝った、(口の前で、手をパクパクと動かすジェスチャー) 通訳・・・(注：グアムに) 入ったときね。(口の前で、手をパクパクと動かすジェスチャーのみ) もう・・・同じ日本語は、僕らとね、兵隊。島民は・・・同じ・・・(口の前で手をパクパク動かすジェスチャー) あの・・・言葉。

.....

(話し変わって)

マ：・・・昭和 20 年、来るだろう、満州から兵隊、空軍。もう、ゴチン (?), ゴチってわかる? せんしゅうかん (注:潜水艦)でね、やられるんだよ。で、みんな貧乏。貧乏って、ふんどし一枚で (注:陸に) 上がってくる。・・・で、これ (食べるジェスチャー)も、ないだろ。鉄砲もない。家 (うち) もない。だが半分は死んでる、半分は・・・(注:日本に) 帰る。それ、Guam とサイパンも、見た、僕。・・・あの、あぁ・・・じょう、アメリカが上陸する前ね、僕入ってきた 10 日 (とおか) 目、で、アメリカが来た。Guam・・・から来たの。Senri-yochi (注:占領地) から来た。あれは、バンデ (?)・・・、あの船の、あの何だっけかなあ、(咳き込む)・・・ かつお・・・節の船で、乗ってきた。5 人乗りね。だから、運がよかった。あめ、あぁ、Guam でね、つかまえられたものは、もうみんな、捕虜だよ、サイパンの人は。・・・ 日本人の兵隊と一緒に。

.....

(話し変わって)

マ：もう立派に毎日、てんのへいか (天皇陛下) 見て、さよなら、最敬礼してる、朝、学校。

小：その今おっしゃった「朕(ちん)惟(おも)フニ・・・」っていうのは全部覚えてますか。

マ：少し。

小：はい。今、あの・・・できますか？

マ：(間髪を入れず) そうね。「ちんおもうに、わがこうそ、こうぞう、くにをはじむること、こうえんに (注:朕惟フニ、我が皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ)」だ。(笑顔) 一番いいのはね、日本語で、「成せばなる」。だから戦争のあと、一番高い、あのお成功したのは、日本とドイツだ。(しばし考え込むように沈黙) 日本は、成せばなる一Know-how、英語でね、よう言うよーとかって、成功したねって、そりゃ、Know-how に。(笑顔が消えて、引き締まった表情に変わる。)

.....

(話し変わって)

マ：60 年もね、なかったから良かった。僕は・・・日露戦争から知ってる。わかんねえだろな。日露戦争。ロシアと乃木大将。(笑顔) みんな教えられた。ね。5 年、だけで。だから、あぁ、漢字、教えない。

松：ひらがなと、カタカナだけ？

マ：そうそう。・・・たまに漢字。



松： それを 5 年間？

マ： 5 年、いや・・・

松： 3 年間？

マ： 4 年から習うんだよ。 算術・・・算術も。(笑顔)

松： あ、算術・・・



マ： うーん (そろばんを弾くジェスチャー) そろばんも・・・(自分の胸を右手でポンポンと叩いて) 一等とったよ、そろばん。

ゼ： (一斉に) へえ・・・

マ： くく八十一、さんご十五。ああ。掛け算。(自分の頭を軽く叩いて)、もう覚えてる、まだ。

松： ふーん、日本、日本スタイルの、あの一。

マ： (ひざを叩きながら、リズムに乗って歌う調子で)

♪ ににんがーしー、にさんがーろくー、はっぱあろくじゅうし・・・くくはちじゅういち。♪ ...
くっく はちじゅ・・・、はっはっはっ!!! (ご機嫌な笑い)

日本でもね、あんたよりも分かるよ。日本、みんな行ってる。はじから、はじまで。

小： どんなどころに行きましたか？

マ： 温泉。 例えば、有名な加賀屋。

松： 金沢。

マ： 金沢。

小： はあ・・・!

マ： この人 (注：松本氏を指して) のところでも行ったんだよー。

松： 姫路。(笑)

マ： 姫路。急に会ったんだよ。(笑)

松： そう、ビックリした。(笑)

マ： コップあるよ、あれ、コップ! 一番いい、レ・・・あのレストランで。

松： ふふ。

マ： I enjoy... 僕、好き日本。これ（口の前に手をやって、パクパクしゃべるジェスチャーをしながら）できるから。で、いつも行ったら、ほとんど、あの、どこでも行けるからね。Japan Pass Card（注：Japan Rail Pass のこと?）外人はね、半額で。

松：（ゼミ生に）JR Railway Pass って言うのがあるのね。新幹線、こう乗り放題で、いくらっていうのが。何日間かで。

.....

（話し変わって）

マ： あれ（拝むジェスチャー）

松： ああ、セレモニーの時?

マ： そう・・・ あれ、wheelchair に乗った。（電動式のようなジェスチャー）

小： 広島と長崎では、どういうお祈りをしてきたんですか?

マ： 式にいった。式に。お祈り。だから、6日（むいか）ね、と10日（とおか）か7日（なのか）ころが長崎行ったんだ・・・ だから、長崎はすぐ行った。ホテル取れないから・・・。一番最初、あの・・・ 広島ね。おかよん・・・その手前? 岡山?

松： 岡山。

マ： ...で泊まった。(笑)

松： ああ、そう!(笑)

マ： で、ワン・パス (?) だからね、遠くないんだ。みんなフリーだから、もう。

松： そうそう。

.....

(話し変わって)

マ： (原爆についてどう考えるか、というゼミ生の質問に) ねええ、200万人ぐらい死んだだろ。ベトナム戦争。あの・・・天皇陛下が降参しないとね、毎日、2万ずつで死ぬよ、爆弾で。

.....

(話し変わって)

松： 8月・・・?

マ： いやあ、だから (ペンを持つジェスチャーをして) サインしたのは。

松： ああ、サインしたの・・・ ええと、サンフランシスコ講和条約?

小： いえいえ。

マ： 8月のね、14日 (じゅうよっか)。18・・・は、もう天皇陛下が (マイクの前でしゃべるジェスチャーをしながら) 言った。それ。(しばらく沈黙)・・・今の天皇陛下と、会ったことある。サイパンで・・・あの、見に来たときね、マッピ。・・・。

小： どうでしたか。天皇と会って。

マ： うん、よかった。違うよ、もう人間が。ははは。
前は・・・殿様なっていたろう。

松： 神様。

マ： 神様。(笑っていたが、笑いが消えてしばらく沈黙)

小： 今は、どうですか?

マ： (即座に) 今は、もう、にんげんっ。 もう・・・自分で言うんだもん。(うなづく)



松： 何か、話ししましたか。

マ： そうそう。

松： どんな

マ： でも、いやあ、英語うますぎるね。(自分の胸を指差して) まいったよ。僕、英語習わなかったよ。
(右手を横に振りながら笑顔で) 天皇陛下が、あの、例えば、truck、あー、トラークッシュ (?聞き取り不可) とかね。

(話し変わって)

ゼ： 今年から、あの、サイパンはアメリカの一部になるんです。あの・・・国籍も、アメリカの国籍持つようになると思うんですけど、それについてどう思いますか?

マ： 籍? アメリカの籍?

小： 国籍。

マ： ...Forty-four だから、40年あとにもらった。本当の籍。パスポートね。すぐじゃなかった。で、日本はね、サイパン (注: 統治したのは)、30年だけ。アメリカ、今、60何年だよ、サイパンに。僕がはたちのとき、来たろ。66年!!! 今いるアメリカは。だから、ああ、パスポート・・・USA パスポートね、もらったのは、もう・・・ああ、30年前ぐらいだな。Nineteen-eighty. あの、カーターがサインしたね。僕らの「カンポ」ある。カンポって法律・・・ね。・・・日本の言葉で、カンポっていう、あれ? (ゼミ生の答えを待ちながら) 日本の法律。

松： 憲法!

マ： 憲法! (おどけるように右手を高く挙げて) 憲法、憲法、憲法、憲法、憲法! 憲法、作った。Guam はね、テリトリー、向こうの土地。こっちは、Commonwealth ね。・・・ね、僕らの・・・ ああ・・・ 例えば日本でもね、American trouble あったら、アメリカの (聞き取り不可)。 だろ? だから・・・ あれ・・・ Ambassador は何て言ったかな、日本で。

松： 大使。

.....

(話変わって)

マ： 突撃。(銃剣を突くジェスチャー) 昭和 18 年から。だから・・・占領地行ったときでもね、もう・・・パス出すよ。取れた、僕らの領土。(しばらく考え込む) せ・・・シャツがあるよ。(自分のシャツを笑顔でひっぱりながら)

.....

(現在も残る日本統治時代の建造物についての話しになる)

マ： あれ、みんな Post Office。 みんな、あれ。(柱のかたちをなぞるジェスチャー) あれ、みんなよ。だが、あのお、・・・何つうかな・・・ああ・・・直したい。 なに、ね、あの、住んだ・・・住むとき。 僕も、あのとき、ああ、forty-five, forty-six, forty-seven, forty-eight...nine... 5 年住んだよ。タダ。 でね。(笑顔)

小： ひとつ・・・いいですか？

マ： はい。

小： 日本人が、こう日本の企業とか、日本の政府が、あの、もっと、こう・・・お金を出して、ああいふ建物をきれいに直したり、あの、神社の鳥居で、あの、倒れているものを、こう、直したりって、するほうがいいでしょうか。それとも、もう倒れたままで、保存する方がいいでしょうか？

マ： いや、ほとんど、住んでるよ。(注：日本統治時代の建物に?) チャランカのほうは。みんな。 それって、オーナーがいる。だから、あれ、今、向こうではね、あれ住んでないだろ、ふたつ・・・二軒。
(注：チャランカノアに今も残る旧教員住宅として建てられた日本風家屋のこと) あれ、あのお、きれいに作ろうとしたんだと思う。They stopped. 止められた。うん・・・

松： Historical Site って・・・

マ： Because they changed the 窓・・・とかね、あれ・・・だから、historic site ね、できない。

小： そうすると、今から 10 年とかしたら、もう、倒れて、壊れてしまうかもしれないですね。

マ： あれはもう、前から倒れていたよ。立ってるのは、まだ 100 年立ってるよ、とっくにだから。

松： リノベーションは、できる？

マ：・・・前はね。

松： But right now, people renovate...

マ： Yeah. ね。Remember that one? This tank. タンクも、あの、水のタンク。僕もあるよ、2つ、タンク。こっちの中と、こちらと。・・・それは・・・あの、ミツカン (?) の、maybe 近く。あれは、会社の、大きい、前ね。中にあるのはね、四軒 (供給?) できる。こっちと、こっちね。・・・そのタンク。タンクだけ、と、井戸、使う。僕らの時代。これ (水道栓をひねるジェスチャー) ない。ポンプ。

松： そうですね。水道はない時代だから、井戸ですよね。

小： 学生たちが、あの、今日も、倒れた神社の跡に、あの、行ったんですね。南郷神社っていう所に行きました。

マ： あ?

松： Kannat Tapbla に・・・ There is a shrine....

マ： おおおお・・・

小： こう倒れた・・・

マ： こっちにも、あったよ。

小： ああ・・・



マ： 興発の。たくさんある。

松： 南興神社。 ああ、南洋興発の。

マ： 南洋興発でも・・・3つくらい、あるだろう。

松： ああ、そう。

小： 倒れたままで、こう・・・神社の鳥居が・・・



マ： Yeah. (強くうなづく)

小： で、学生たちが、これを、どうしたらいいでしょうって・・・

マ： 僕、(聞き取り不可) したとこ 分からなかったんだ。 あれ (柱をなぞるようなジェスチャーをしながら)、あるったかな、あの・・・foundation。

小： 基礎のところは、うーん。そうすると、あのまま、ずーっと、サイパンでは、倒れたまんまで、あと 50 年とか 100 年とかって・・・

マ： (突然話題を変えて?) 土地もね・・・ 土地なしだった。で、今もう土地、たくさんある・・・ ははは・・・しみず (清水?)、日本人に・・・が、買ったのはね・・・あれも・・・よかったんだよ。もう戻ってきて返ってこないな。 ぜーんぜん、ちがう。

.....

(話し変わって)

ゼ： (注：日本統治時代) 学校でどんな勉強をしましたか。

マ： 一番最初はね・・・6時、学校行く。そして、下向いて、最敬礼する。(お辞儀のジェスチャー) また、今日お願いしますって、天皇陛下に。 そして・・・たいしょう (注：体操)。(両腕を上げて) 機械・・・ああ、ラジオか・・・たいしょう。 たいそう (体操)。 一番最初、ああ・・・ああ・・・やっぱし、習うのはあ、あれさ。 ABC みたいに。 おはよう・・・何で言うかなあ、日本語で。

ゼ： ひらがな。

マ： ABC!

松： ひらがな?

マ： いーや。(強く否定して、歌い出す) ♪♪ ABCD ♪♪

松： あいうえお。

マ： ♪♪ あーいーうーえーおっけよー (?) ♪♪ みたいなさ。(はにかんだ笑顔) ね。 あれ、みんな・・・ (口びるの前で右手をパクパクさせるジェスチャー)・・・だから、算術も、I mean ... Yeah, 算術も、歌にした。 覚えるのに。・・・ 先生が一番。 僕らの先生。 先生は同じ。 だがあ・・・、

教えるのは、(右手を振って) 違う。 ねえ、僕ら・・・(両手で高さの違いを示すジェスチャーをしながら) 話し方もできない。・・・だから、先生はみんな、あの・・・立派な・・・あの、日本から。 写真あるよ。

小： 日本人で、1番仲が良かったお友達は いましたか？

マ： (何を聞くんだね、といわんばかりの表情で) たくさんいる。 商売で。 前はね、あの・・・オリンピックで、1番最初、東京オリンピックでね、1番最初、昭和天皇見た。ビックリした。 あれはもう・・・例えば・・・偉いの知ってる。たくさん。(笑顔) 東急のね、五島昇。 ね。・・・とお・・・広島のね、鷲峰寺 (じゅうぼうじ?)。 わからないだろう、あれ。 あれも大きい。・・・それから、東急のホテルね。 前、いつも、半額で泊まってた。・・・(笑顔) 今でも、まだいるよ。 だが、あの・・・商売・・・だから、商売のちかいじゃなくて、もっと商売してる。

松： 小学校の時の友達は、います？

マ： 小学・・・公学校だよ、僕ら。(笑)

松： あ、そうそう、すいません。公学校の時の。

マ： 先生、呼んできたよ。 Joeten も、みんな同級ね。 が・・・ああ(眼鏡をはずして) 古川先生。・・・あれはあ・・・なに県だったかな。 山形! 僕、あの、補習科になって、五年生のとき。 公学校と小学校、どの(注: どう) 違う? (両手で高さの違いを示すジェスチャーをしながら)

松： 公学校は3年生まで。

マ： で・・・補習科・・・は。

松： そのあと、2年。

マ： ふたつ。 僕ら、補習科、1年と2年ある・・・ だったんだ。 Anyway, for...

松： 出来る人だけが、additional で、two years とか何か勉強できたんですか？

マ： そう、そうそう。(強くうなずく) 3年はもう、出てもいいんだ。 あれは・・・何と言う、法律みたい。例えば、日本時代は6つ。

松： ああ、義務教育ね。

マ： ああ。 ぎむちょういく。(注：義務教育)・・・でも、もう忘れて。(笑いながらゼミ生の方を向いて否定するように手を振りながら)今の日本が、1番だよ。 世界で2番だよ、おまえ。(笑いながら、うなづく)

.....

(話し変わって)

松： 写真を・・・写真を見せていただいていたいいですか？

マ： あ、そうね。Yeah. 事務・・・小さい事務所。 で、僕、あの・・・大学出た・・・ところ、見せてる。

(ここからオフィスの壁に飾られた写真の説明が始まる。長い木製の差し棒を握って、それで写真を示すのだが、その立ち姿は、怖い先生を彷彿させる。)

マ： (写真を指して)・・・ 学校、大学行ってる。

松： えっ、日本人のお孫さん。

マ： 半分。

松： 半分日本人。



マ： おかあさん。 お父さんが、僕のせがれだ。 ね。 たくさんいるから、子供。ろくろく・・・

小： 36

マ： No!!! (小代を指差し舌打ちして笑いながら)計算、わからない。ろくろく12。ろくたすろくだ!!!

小： すみません、間違えました。(ゼミ生笑)

マ： (Joeten氏の写真を示して)。これはねえ、ひやくまんちょうじょう(注：百万長者)。20年なったよ、同級で。 ねっ。 で、僕が・・・日本の兵隊の時ね。 真ん中、あれ。 ね。(別の写真を指して)アメリカの兵隊 会ったとき、これ・・・ 僕これ。 旗、持ってる・・・で、これがね、ワシントンの、ペンタゴン・・・ あっ、ペンタゴン、何ていうかな、あれ。

ゼ： 国防総省。

マ： うん、これ。これが僕。これ、ハワイ。ねっ。大統領からみんな・・・僕の・・・ありがとうと言ってくるよ。(注：大統領から選挙中の寄付に対して送られた感謝状) 読んでごらん、これ。

(話し変わって)

マ： 向こう、向こう。(部屋の反対側のドアを指して) 早稲田! ドア、閉めて。ドア、閉めて!

(ゼミ生がドアを閉めると、ドアの部屋側に早稲田大学のペナントが飾られており、さらにその下に、皇室一家のカレンダーが貼られているのを、ゼミ生が見つけて、そちらの方にややどよめく。)

松： マニーさん、早稲田ですか。

マ： おお・・・ あれ行ったのは・・・友達でね。(ゼミ生が皇室カレンダーを見つけたのに気付いて) ほら、天皇陛下のファミリーだ。・・・ああ、昭和天皇(注：の写真)、上にあるよ。僕と・・・これ。

.....

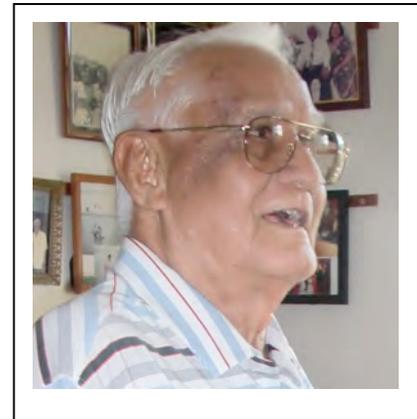
(話し変わって)

マ： 九州

松： 日本の兵隊も、アメリカの兵隊も、経験してるんですね。

マ： そうそう。 **Double agent** だったんだよ。

松： ええっ?



マ： **Double agent**. へへへ・・・ (いともあっさりと笑いながら)

マ： 南洋あれあり(?)、みんな、毎年(まいねん)、付き合ってるんだよ。これ、読んでごらん。何年前? これ沖縄だ。・・・ああん、読んでごらん。

ゼ： 戦国南洋・・・(聞き取り不可)

マ： そう、若松。

松： ああ、会津若松のグループなんだ。

マ： ああ、後ろにもあるよ。・・・ 結婚式もある。 子どもの、結婚式。 だが、孫ね、1人いるだろ。

.....

マ： (別の写真を示して) あれあれ。 あれがそう。 招待。

松： へえ、招待状。

マ： ああ、これ。 Ford とね、あの・・・ Reagan・・・とね・・・あの・・・

松： 2回行ったの？

マ： あ？

松： 2回。

マ： インヤ1回だよ。

松： 1回だけ。



マ： だが、1回は・・・あの・・・選挙する前。 National Convention って、Republican のね、あれが、1番大きいよ。

(話題変わって)

マ： (内モンゴルからの留学生をつかまえて) 教育されたよ・・・ 成せばなる。 ほんと一番。 若いとき、兵隊はね、『海ゆかば、山、草、むす、く (注：か) ばね・・・』こんな歌あるよ (歌い出す)

♪ 海—ゆ—かば—、み—づ—く、か—ば—ね— ♪

(歌をやめて詩を詠じる) 山、ゆけば、草むすかばね。・・・

(注：『海行かば 水漬 (みづ) く屍 (かばね) 山 (やま) 行かば 草生 (くさむ) す屍』の下り。)

(しばらく沈黙した後)・・・でも、良かったよ。・・・戦争も、60何年ないから、日本 (にほん)。

小： マニーさんは、学校の成績は、とっても良かったんですよね？

マ： いや。 さんし・・・さんじゅ・・・さんしす・・・ 算術だけ、1 番取った。 読み方だめ、もう・・・。
だが・・・そろばん、まだあるよ。(デスクのほうを指さして) そろばん・・・五珠 (ごだま)・・・
ああ？ (デスクの後ろの棚から、そろばんを取り上げて) 「ご破算 (わざん) なり!」(慣れた手つき
で、左から右へと珠を払って)。 へっへっへっ。

小： (ゼミ生に対して) 誰かそろばんできる人？

マ： あ？ (そろばんをカタカタと鳴らして、デスクの上に置き、写真に気がついて) これは？ これ・・・
これ、宮城・・・の前。 これ (写真を指して) 日本、みんな。 (これは) 教会行ってるんだよ。 こ
れは、高崎・・・これは・・・北海道。 これ、宮城の前。・・・なに公園だったっけな。日比谷公園。
知ってるかな。 (自分を指して) 江戸っ子だよ。

ゼ： 僕、高校が近くでした。

マ： へっへ・・・ (別の写真を見せながら) 去年・・・サイパンで・・・日本のね・・・あつ、こ
れ・・・(何かゼミ生に見せるものを探し、湯呑みを手に取って) 綾子さん、どこ行った・・・ねっ、Marriott
Hotel. ねえ。 50 人ころ、ここに泊まる。僕の誕生日、呼んでくれた。 名古屋駅。

(額に入れた戦争中の新聞記事の切り抜きを示しながら)

マ： 隠れてるの、これが最後。 1 人だけ。木の上で住んでた。でえ、下はねえ、泥。・・・Wetland.
ほら、書いとるよ。(と、ゼミ生に見せる)

松： 湿地帯みたいなどころがあるんですよ、サイパンでも。 で、そこの木の上に、戦争が終わったこ
とを信じたくない人が・・・

マ： 今も・・・来いって・・・会えないって。 いや、時代が違うと、言ったんだよ、僕が・・・
この人とね、あの時代、会えない。 普通の日本人は・・・それだけ、みんな知ってるよ。 ああ・・・
昭和・・・32 年 (さんじゅうにねん)？ 日本、女、選挙できない。 知ってる？ OK。 あれ、もう、
あの時・・・時代から言ってるよ、僕・・・日本に。 (松本氏に写真が入った額を渡して、置く場所を
指示) いや、こっち、後で・・・。

[注：昭和 32 年、日本女性に選挙権がなかったというのは、マニーさんの勘違いだが、「知ってる？」と聞
かれ、ゼミ生はその迫力に「はい」と全員がうなづいていた。]



追記

このインタビューの7ヶ月後、2011年4月にマニーさんは永眠されました。享年87才。

お墓は、2011年9月にサイパン研修を行った際、マウント・カーメル墓地を訪ねたゼミ生久保田優稀が偶然発見しました。その前年、このインタビューに参加していて顔をしっかり覚えていたのでしょうか、このお墓の前で突然「あっ、マニーさん！」と叫び声を上げ、すぐにウィリーさんが駆けつけて確認したものです。きっと私たちのことをマニーさんは覚えてくれていて、それでたまたま墓地を訪れた私たちを呼んでくれたのでしょう。ありがとうございます。マニーさんの生前の活躍を紹介した Saipan Tribune のお悔やみの記事も、合わせて紹介します。安らかにお眠り下さい。



<http://www.saipantribune.com/newsstory.aspx?newsID=108327&cat=1>

Saipan Tribune

LOCAL

Monday, April 04, 2011

By Haidee V. Eugenio, Reporter

Manuel S. Villagomez, 87

Manuel S. Villagomez, one of the CNMI's pioneer entrepreneurs, passed away early Friday morning at his home in Fina Sisu with his family by his side. He was 87. Villagomez, fondly called Ta Ne' Kiyu," is a major co-sponsor of the Joeten-Kiyu Public Library in Susupe. He founded various business ventures under the MSV flagship of companies, after growing up during the Japanese occupation of the Northern Marianas

and through World War II. One of his 12 children, Patricia Cepeda, said yesterday that they have always been a close-knit family who find joy in being always there for each other and for having regular Sunday lunches together at her father's house.

"We will miss spending our time with him. He's always mentoring us to be good," Cepeda told Saipan Tribune.

Cepeda said her father passed away at 5:50am on Friday at his house, with family members surrounding him. "He had been sick for two weeks, and we've been spending a lot of time with him. So when he passed away, the family was there," she said in a phone interview.

Family members were gathered at the patriarch's house yesterday. Cepeda is the second to the eldest of 12 children—six men and six women. She said her father has 40 grandchildren and some 43 great grandchildren. Gov. Benigno R. Fitial and Lt. Gov. Eloy S. Inos issued a statement yesterday on the passing of Villagomez, whom they described as a "pioneering entrepreneur" who founded various business ventures under the MSV flagship of companies. "Lt. Gov. Inos and I extend our condolences to the children and the entire family of the late Manuel Villagomez, fondly known as Ta Ne' Kiyu," Fitial said.

Villagomez was born on Jan. 24, 1924, grew up during the Japanese occupation, and witnessed the Battle of Saipan between American troops and Japanese soldiers.

Inos, for his part, said Villagomez "soon became a pioneering entrepreneur for the local community through the various business ventures under the MSV flagship of companies." He said "the esteemed gentleman and avid baseball fan was also a major co-sponsor to the lone public library, properly named the Joeten Kiyu Public Library."

Fitial said just a couple of days before Villagomez's passing, he paid a visit to "this fine patriarch at his home. "I fondly recalled his love of baseball and his passion for the San Francisco Giants. It is truly no coincidence that this honorable man bid farewell during the opening day games of Major League Baseball. Manuel Kiyu's passing is a deep loss for our Commonwealth. He will be sorely missed," the governor said in a statement.